

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL&FAX 558-0718

住しの利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2007.3.11 No.458 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は、次の見解を発表しました。

同日の五日市の 対話演説会でも



全参加者40余名と握手

「西多摩のつどい」と呼称して行われた「五日市の会」主催の対話演説会に吉田万三候補が参加。力強い訴えのあと、会場をくまなく巡って、全参加者と握手。会場は「頑張りますよ！」の声と拍手に包まれました。

対話演説会では、6人の地元弁士が温泉問題などのテーマで報告。会場の参加者から質問や提言が出て活発な議論となりました。この模様はビデオに収め、地元の要求として吉田万三さんに届けることにしています。参加された方から「地元の人が語るこの演説会は良かった」と好評でした。



吉田万三候補

石原都政を告発、 大型開発ストップ！ 福祉の充実を訴える

わき上がる拍手のなか、吉田万三都知事候補が登場。約三〇分間、下町調の独特の語り口で石原都政を鋭く告発し、「都民の声を都政に生かし、大型開発ストップ、憲法を守る都政に変えましょう」と都

政改革プラン」を具体的に語り、満場の拍手に包まれました。最後は新日本婦人の会をはじめ各地域の団体から、吉田候補への花束や、寄せ書き、青梅せんべい、梅干、金一封など、持ち帰

吉田万三さんの話

「東京オリピックのために毎年一〇〇億円も積み立てているのを初めて知った。これだけでも三〇人学級の実現や、中学三年までの医療費の無料化、都営住宅ができるという話は良く分かった」

徳留副委員長が報告

最初に日本共産党東京都副委員長徳留道信氏が党都議団の論戦と三つ

東京都知事選
万三さん勝利で西多摩に春を！
2月26日
会場にあふれた熱気。「春をよぶ西多摩のつどい」に450人

革新都政をつくる西多摩の会は、二月二十六日青梅霞共益会館で都知事選勝利に向けて「春をよぶ西多摩みんなのつどい」を開催しました。当日は四五〇人が参加し、会場いっぱいになりました。「中山太鼓」一座の華やかで力強い「ソーラン節」などで幕開けしました。

れないほどの沢山のプレゼントが手渡されました。集いが終って、「初めて吉田万三さんの話を聞いた。分かりやすい話だ」

「東京オリピックのために毎年一〇〇億円も積み立てているのを初めて知った。これだけでも三〇人学級の実現や、中学三年までの医療費の無料化、都営住宅ができるという話は良く分かった」

「吉田万三さんは素晴らしい候補者だ」などの感想が寄せられました。



5才のむすめの好きな遊びは「おうちごっこ」。ままごとです。私たちは「お母さんごっこ」といったけど…。見てみると構成はお姉さんだらけで、あとは赤ちゃんとか。「お母さんは？」と聞くと「うーん、いないの」「びょうきでにゅういんしてるの」しつこく聞くと「しんじゃったことにしよう」「そうだね！」ええええええ！
超花形だったお母さん役なのに！？
そんなにも魅力のないお母さんなのかと反省していたら、「今日はお母さんをやったよ」との話

がちらほら。安心して油断していたら、先日また「あたしおねえさん。かあさんネコのやぐね。おかあさんはいないの」うわあん、何がいけないのですかああああ！！ (07.3.11)
たばた あずみ
連絡先は☎550-6674

野良望

年初善光寺を参拝した折り、近くの荻萱山西光寺へ立ち寄った。荻萱上人の子供である道念が修行した寺である。江戸から小布施に向かった絵師・北斎も歩いた北国街道に面し、参詣者・商人・旅人も西光寺に立ち寄ってから善光寺へ向かったものの、今では訪れる者は殆どいないと寺の人が嘆いていた。◆西光寺で口演者による地獄絵図を見ながら絵解き解説を受けた。古代インド仏教の悪因悪果を輪廻とした地獄である。人や獣を殺した殺生地獄、盗みを重ねた末の黒縄地獄、邪淫の末の柴台地獄酒を飲んで地獄へ落ちるというから、現代人はみな地獄へ落ちて三途の川を渡り、閻魔大王の審判をうける事になる。◆地獄絵図は死後の世界を取り扱っているが、現代社会を反映した生者への教訓と、庶民が苦しむ問題を解決し、人間存在の在り方を促しているのである。嘘をついた者は舌を抜かれて大叫喚地獄へ落ちるといふから、責任逃れの天才と云われる東京都知事に、閻魔大王はどんな審判を下すのだろうか。(木崎)

温泉問題を考える会が「経験交流会」

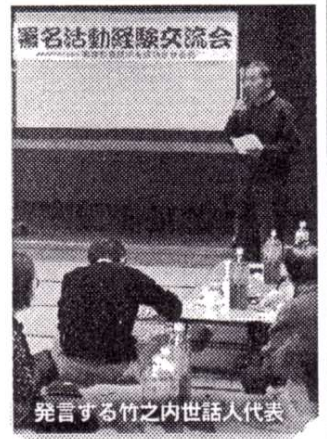
2月27日

☆税金の使われ方に関心高めた ☆反応大きく、楽しく署名取組む



テレビ報道のビデオを見る参加者

「『署名をしたいから来てほしい』といってきてくれる。とても楽しい署名でした」——「温泉問題を考える会」が27日、ルピア3階で開いた「経験交流会」には40人以上が詰めかけました。さまざまな経験や意見が出され、会場はしばしば笑いに包まれる和やかな交流会になりました。



発言する竹之内世話人代表

代表世話人の竹之内正雄氏は、「生年月日など個人情報明らかにする署名で、大変重みのある5855筆」だと強調、「温泉施設がある限り活動は続く。事業収支計画など非公開としている問題を明らかにしていく。市民の立場から市政をみていくような組織作りも考えていかねば」と提起しました。市長や賛成した議員の責任追及の発言が多く、「責任を果たさるため選挙があったも田中市長を辞めさせないでくれ」といわれた。市は毎年6千万円借金返済するのに第三セクターは市の施設をただで使って毎年3200万円利益を上げるといっている腹が立つ。6千万円で貸せばいいのだから意見も。

「税金がこんなに上がっているのになんで温泉かとお怒りお年寄りがいっぱい」若い人も税金の使われ方に強い不満を持っていることにびっくりし、嬉しくなった。市民が税金の使われ方に関心を寄せるようになった。それで成功だ。など次々と発言。オンブズマン制度についても質問が出され、話し合われました。

最後に山西善子世話人が今後の取り組みとして、

- ① 三月議会の総務文教委員会を傍聴しよう
- ② 監査委員会提出には大勢の参加で、きちんと監査するよう市民の意思を示そう
- ③ 監査を分析し市民への報告会をひらく
- ④ 市民が財政の勉強をする場をもとう
- ⑤ 市長選立候補に名乗りをあげてほしいと呼びかけました。



絵手紙/神崎茂子さん・瀬戸岡在住

山柳二題

編纂を纏って財布に 穴をあけ
立ちたいが 名分立たぬ 民主党

西川 昇

● 影山 保	12日(月) 3番(昼前後の予定)
● 戸沢弘征	13日(火) 3番(昼前後の予定)
● 山根とみえ	14日(水) 1番(午前のトップ)

3月議会の日程
議事日程
共産党質問

多摩の西摩の市議・町議選

どこ大激戦・大乱戦の様相

日本共産党西多摩青梅地区
常任委員の松平さんに聞く

一斉地方選挙がある西多摩各地の市議選・町議選の選挙情勢は、一言でいって、何処でも大激戦、大乱戦という状況です。

自民党は、「青梅の自民党を変えろ」と宣伝し、深刻な支持率低下を逆パンにして保守票の掘り起こしをねらい立候補者を大幅に増やしています。

羽村市の民主党は与党でありながら「与党に喝」と野党ポーズで宣伝、泡沫なしの激戦自治体です。

福生市でも、終盤に自民党の大物が立候補を表明し少数激戦になつていきます。

公明党は「共産党のウソつき」などのロコミをしていますが、

日本共産党西多摩青梅地区委員会、あきる野市の党支持者、後援会のみなさんが、直接の支援活動とともに、友人、知人にお願いをし、支持のお願いをして頂くことを切望しています。

歴史探訪 第38回 多摩川の渡し ⑤

◇「熊川の渡し」

多摩川と秋川が合流するあきる野市南東最端と多摩橋の中間点に、陸橋通り(主要地方道七号杉並あきる野線)が市内を東西に通っています。小川から拝島駅方面への交通路ですが、この道の多摩川越えが「熊川の渡し」でした。「福生の渡し」が平井川に沿って日の出・五日市への交通路であったのに対し、「熊川の渡し」は秋川沿いの村々を経て五日市・檜原への交通路であり、「五日市拝島道」とも呼ばれていました。渡船起源は不明ですが、中世の小川氏・二宮城・高月城とも関連していたと云われますので、古くから渡船があったと考えられます。

正式営業の記録として、明治三十六年「乗合船営業願」が福生から警察へ出されたものがあります。四十三人乗り・二十三人乗りの二艘、船頭二人、渡船賃は「草花村渡船場船賃と同額」とありますので、福生や牛浜の渡しに合わせたのでしょう。正式営業が「福生の渡し」より三年遅れた理由は、熊川村と小川村の両対岸の営業権の調整にありました。

(続く) 草花 木崎秀治

俳句

春色を空から貰ひ犬フグリ (やす子)

庭の梅つばみ日毎にふくらみて (ルリ子)

白梅や小道行く人振り向かず (未里)

本編れ日に寄りそつてをり福寿草 (静子)

ストロブの葉の湯気や余寒あり (忠治)

暖冬や去年より咲きし花の紅 (勝代)

わが影の髪春風にふさと揺れ (照代)

春愁ひ白舟の恩師逝きにけり (富子)

嘆きも言葉のひとつ大あれは (かほる)

世に怒り腕に力の豆を撒き (香治)